

スロヴェニア訪問記

北海道 EU 協会顧問 林 秀毅

北海道 EU 協会の方々には、欧州のスロヴェニアという国について、お聞きになったことがあるだろう。道内では、女子スキージャンプ高梨沙羅選手の練習拠点と言った方が話は早いかもしれない。面積は四国とほぼ同じ、人口は約 200 万人の小さな国だ。旧ユーゴスラビア連邦の一番北側にあり、アルプスの南側に位置する美しい国だ。筆者は先般、スロヴェニア政府主催の国際フォーラムに出席した。会場は欧州でも有数のリゾート地と言われるブレッド湖畔のホテルだった（写真左）。

冒頭、同国の首相・副首相から、今回の主要テーマが結束にあることが示された。この背景には、国内で直前に国土の三分の二に及ぶ大規模な洪水が起きたこと、国外ではウクライナ侵攻が続き、西欧やロシアなど元々さまざまな力が交錯する、この地域の状況が一層複雑になっていることがある。さらに、EU のミシェル大統領、中国・韓国・インドなどの閣僚・大使級の参加者も加わり、貿易・環境といったグローバルな課題について活発な意見が交わされた。

今回フォーラムが行われたスロヴェニアは、かつて連邦国家であるユーゴスラヴィアに属し、連邦内で先進的な工業部門を担っていた。しかし 1991 年の

独立後、ユーゴスラヴィアが解体し戦争状態となったため、スロヴェニアにとって市場が失われてしまった。そのため地理的にも近いドイツ・イタリアといった西欧諸国への輸出に、自国産業の活路を求めた。

その後、2004 年、スロヴェニアは他の旧社会主義国などと共に欧州連合 (EU) に加盟した。EU という大きな単一市場に属することにより、欧州の大企業に部品などを供給することが一段と容易になった。さらに 2007 年、旧社会主義国の中では最も早く、単一通貨ユーロを導入した。

フォーラム終了後、首都リュブリャナに移動し、今回の訪問に至るきっかけを作って頂いた財務大臣、元駐日大使といった方々とお会いすることができた。スロヴェニアは、日本にはあまり輸入されていないが、良質なワインを生産することで有名だ。財務大臣から贈られた赤ワインは、大変味わい深かった（写真右）。

ものづくりで独自の発展を遂げたスロヴェニアでは、現在、日本の官民によるインフラ協力や日本企業の拠点づくりも進んでおり、今後一層、両国の関係強化が期待される。協会会員の皆様も、観光あるいはビジネスで一度、訪れてみてはいかがだろうか。

